

# 湘友会報 2005

第47号・2005年発行  
**湘南高等学校湘友会事務所**  
 〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301  
 電話・fax 0466-50-0386  
 <原則として月・水・金の午後に事務所幹事室在室>  
 mail shoyukai@cityfujisawa.ne.jp  
<http://www.shoyukai.org>

会報文中の氏名に付した 数字は卒業回数を表します。

## 2005年度湘友会総会のご案内

多数の会員の出席を期待します。

日時 平成17年6月25日(土)

受付 午前10時00分

開会 午前10時30分

場所 湘南高校内 湘南会館

総会終了後「講演会」(右記事)

懇親会: 午後1時 清明会館食堂(校内)

懇親会会費 3,000円(当日会場受付で受領)

当日受付で80周年記念品(記念誌・絵はがき)を販売します。当日は送料割引価格です。

### 総会運営の輪番参加と「10年会費」納入のお願い ~卒業回数末尾が「5」の

35・45・55・65回の皆さんへ~

湘友会では1997年から「湘友会細則」により、会員の活動活性化のため、卒業回数の末尾が西暦の末尾の数字と一致する会員が、輪番で総会運営に当たるとともに、「10年会費 5,000円」を納入していただくシステム(1996年までは毎年年会費を納入することになっていました)を実施しています。湘友会の年度会計は46,000名を越える会員にむけての会報発行や郵送費だけで、年間数百万円もの経費がかかり、近年単年度では赤字になっています。

湘友会の健全財政を維持するために、10年に一度の5,000円の会費納入は、是非ともご協力をお願い致します。そして、今年の総会運営に当たります35・45・55・65回生の皆さんには、特に総会に是非ご出席をお願いします。

なお定時制・通信制の15・25・35回生の皆さんには、同様に「10年会費 5,000円」の納入をお願い致します。

また昭和27年卒業以後で今までの輪番年に「10年会費」未納の方は、郵便局の払込取扱票を使って、下記宛振込みを必ずお願いします。

口座番号: 00250 4 14177 (右詰めに記入)

加入者名: 湘友会

金額: 5,000円

通信欄に「10年会費」、「卒業回数」を明記下さい。

## 講演会

講師: 脇村 春夫氏(26回生)

演題: 高校野球と教育

脇村春夫氏は、湘南高校が全国大会で優勝した時のナインの一人であり、その後もずっと野球人生を歩んで来られ、現在は、日本高野連の会長として活躍をしておられます。松井秀喜、イチロー、その他多くの日本人選手のアメリカ大リーグでの活躍が連日報道され、



又、日本では、球団合併、新球団

設立・参入等、例年になく野球が話題となっています。

脇村さんには、「高校野球と教育」と題して、現在の教育問題に鋭く切り込んでいただけるようです。湘友会会員、湘南高生、さらにはご家族の皆さんにも是非聞いていただきたいと存じます。ご期待下さい。

### <脇村 春夫氏 略歴>

#### [経歴]

昭和 7年1月	東京に生まれる
昭和26年3月	神奈川県立湘南高等学校卒業
昭和30年3月	東京大学法学部卒業
昭和30年4月	東洋紡績株式会社 入社
昭和61年7月	同社 取締役就任
平成 5年6月	同社 専務取締役退任
平成 7年6月	新興産業株式会社 取締役社長就任
平成10年6月	同社 取締役社長退任
平成11年4月	大阪大学大学院入学 経済研究科博士課程在学中

#### [球歴]

昭和24年8月	第31回全国高等学校野球選手権大会に、2年生3塁手として出場、湘南・初出場、初優勝
昭和26年4月	東京大学3塁手として、東京六大学リーグ戦に出場
昭和29年4月	東京大学野球部主将を務める
昭和30年8月	第26回都市対抗野球大会に富田東洋紡・3塁手で出場、準々決勝進出。翌年東洋紡岩国に移り、社会人野球通算3年プレー
平成14年	(財)日本高等学校野球連盟会長に就任、現在に至る

## 湘友会会員の皆様へ

湘友会会員の皆様には、お元気に過ごしのこととお慶び申し上げます。

湘友会は、今年も新入会員として、全日制318名、定時制72名、通信制253名の卒業生を迎え入れ、総勢約46,000名の組織となりました。

これだけの組織の正常な運営の為には、又、将来の母校支援の為に、財政面での基盤がしっかりしていなければなりません。新入会員の入会金および10年会費に加えて、昨年は26回生以前の会員にご寄付をお願いいたしましたところ、大変多くの方々のご賛同をいただき、別欄のとおり結果となりました。ここに厚く御礼申し上げます。

さて、母校湘南高校においては、現在進められている県公立高校改革推進計画の一環としての学区制撤廃による入学試験が今春から実施され、新たな時代に入っています。

今年の全日制入学者316名の内訳は、旧学区外から約50%で、旧学区内（藤沢、鎌倉）からの入学者とほぼ二分される結果となっているようです。

そもそも公立学校の「学区制」は、前大戦中の国家総動員体制下の昭和16年にはじまったものであることを最近知りましたが、戦後も異なる意味合いをもって長く継承されてきたこの制度が全国的に撤廃される傾向にあることは、公立学校も選択される時代が来ていると実感されるどころです。また、志願者にとっては機会の平等という環境づくりがなされるという意味で、至極当然の方向であると考えられます。

しかし、現場の先生方にとっては、大変革であることには違いなく、さぞご苦労も多いことと想像されます。母校が、県の指針にもある公立高校の「特色づくり」のために、歴史と伝統をも上手く活かして、地域に根ざした、男女共学時代の「特色ある公立高校」として広く県民から選ばれる高校であり続けてほしいものです。

湘友会は、ボランティア意欲に富む卒業生の活動を通して、また、時には金銭的な支援によって母校をバックアップし、精神的な支えにもなる必要があります。

ここで私は会員の皆さんに呼びかけたいと思います。卒業生としての母校支援のひとつに、ご自分の子弟を母校に進学させる、ということがあるのではないのでしょうか。これまでは、狭い学区制に縛られていた面もあったかと思われる。しかし、これからは、県内に住居を構えているかぎり、少なくとも通学区域の制約は解かれたのですから、ぜひ会員の皆さんの優秀なお子さん、お孫さんには湘南高校を選択していただきたいし、また知人の方々にも働きかけていただきたいのです。どうでしょうか？

### 会長 天野 武和



### 湘南高校校長 入江 義雄



## はじめまして

本年4月に県立藤沢総合高校から転任してまいりました入江です。

私はこれまでは新設校を3校のほか、開校後20年を経た再編対象校しか経験しておりませんので、このたびはじめていわゆる「伝統校」に着任したことになります。まだ伝統の重みを実感しているわけではありませんが、校長室の歴代校長先生の写真に見つめられていると、身のすくむ思いがいたします。一日も早く、前任の大澤校長先生が常々口にしてきた「伝統のつくる雰囲気」を生徒諸君の活気ある活動の姿の中に見出したいものだと思います。

現在の教育界の流れの中では、ただ単に伝統の重みに頼っているわけにはまいりません。なお一層の学力の向上を図り、伝統の中にも新たな湘南高校をつくりだしていかなければならない使命を感じています。先生方にもそれぞれの持てる力を十二分に発揮していただき、学校行事・部活動・進路実績等においても、生徒にはもちろんのこと保護者や湘友会の皆様の期待に応えられるよう、また中学校関係者や県民の方々にも「さすが湘南」と思われるような「活力と魅力ある湘南高校」の学校づくりに取り組んでまいりたいと思います。湘友会の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。よろしく申し上げます。

### 湘友会小冊子「秀麗の富士 湘南」第2版作成

湘友会では昨年より新入会員に対し、従来の「湘友会バッジ」に替えて、湘友会への理解と関心を持っていただこうと、入会案内を兼ねて作成した小冊子「秀麗の富士 湘南」を贈っています。大きさはA5版、湘南カラー（スカイブルー）の表紙で、命名は校歌の最初の一節からとりました。

今までの湘南高校周年記念誌の記事を参考に、湘友会発足当時のこと、学校との関わりなど、その歩みをたどりながら編集されています。

今春・16年度末には初版に手を加え、4頁増やして20頁となった第2版を新入会員に贈ることができました。今後もさらに内容の充実を図るとともに、湘南の心意気をも伝える小冊子にしていきたいと、編集委員一同張り切っております。

また、湘南高校新入学生を対象にした冊子の作成も検討中です。



平成 15 年度決算・平成 16 年度予算 (略)

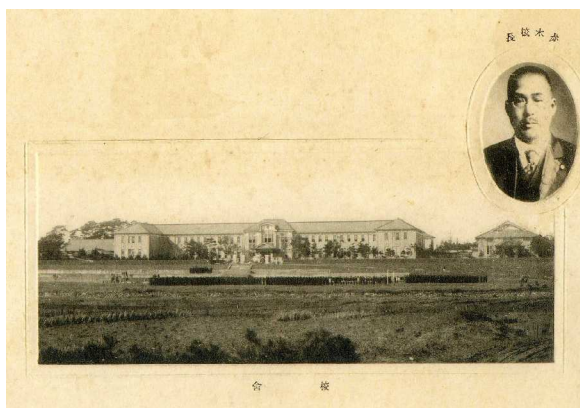
### 1～26 回生先輩へ 寄付の御礼

2004 年 5 月、1～26 回の先輩方に湘友会へのご寄付をお願い致しましたところ、この 3 月末までに 787 名もの多くの先輩よりのご厚志をいただき有難うございました。定額 5,000 円をお願い致しましたので、総額 3,935,000 円余りになりました。先輩方の湘南への熱き思いを感じた次第です。今後、会の活動を通し後輩への援助などに有意義に活用させていただきます所存です。

### 新校舎落成記念写真

27 回同期会が、大正 14 年 12 月 5 日に執り行われた『湘南中学・校舎落成記念式典』の記念写真を引き伸ばし額装し、母校に寄贈しました。大澤校長の 27 回同期会へのお礼状によると、湘南中学創設以来の本格的校舎建設が最終段階に入った大正 12 年 9 月の関東大震災による思いもよらぬ被災と工事中断を経て、翌年から再開された工事の結果ようやく完成した

校舎落成記念式典であったと記録にあると記されています。この式典の行われた翌年大正 15 年 3 月、この新校舎から最初の卒業生が巣立ち、現在の三代目校舎からはこの春には 80 回生が新たに巣立っていきました。写真をよく見ると、丘の上に当時のモダンな校舎の全景が収められ、今もそのままの石段の前のグラウンドに生徒・参列者が並んでいます。往事をしのばせる一葉です。



## 湘南高校 Now

今も変わらぬ活発な学校行事、部活動

最近、他の県立進学校が進学面にシフトする傾向が見られますが、本校はその様子を静観しながら、湘南の校風を引き継ぎ、学習内容のレベルの高さを維持・追求する一方、学力一辺倒にはしることなく学校行事、部活動、委員会活動等々、学校でのさまざまな活動に対し、その時その時で集中して臨ませることで、バランスのとれた人間的な成長を目指す指導を行っています。

一昨年度で46年間続いた浦高戦はなくなりましたが、4月の陸上記録会から始まり11月の駅伝大会で幕を閉じる対組競技、全・定・通の3課程が合同で行う文化祭、1年前から構想を練り、夏休みも毎日のように登校し準備した湘南生が一番燃える体育祭、さらには合唱コンクール、修学旅行、スキー教室等々の学校行事が今なお盛んに行われています。

また、25の文化部、18の運動部が盛んに活動しており、相変わらず湘南高校では、定期試験前のわずかな時期を除き、朝早くから夜遅くまで活発な教育活動が絶えず展開されている状況にあります。

なお、昨年度の主な行事のトピックスは、以下のとおりです。

**体育祭**：昨年度より3学年すべて8クラスとなり、青組はなくなりました。また、3年ぶりに天候に恵まれ、周到な準備のもと、完成度の高い体育祭が実施できました。総合優勝は橙、仮装最優秀は紫、BB(バックボード)最優秀は橙でした。なお、今年は、9/18(日)に行われます。



**文化祭**：さまざまな参加団体の発表等が行われました。湘南の校章を焼き印にした「湘南饅頭」が話題になりました。なお、今年は、6/18(土)・19(日)に行われます。

**合唱コンクール**：昨年もまた、完成度の高い合唱を聴かせてくれました。やはり3年生が最優秀でした。

**修学旅行**：昨年は、北海道・札幌方面に3泊4日で行きました。今年は、10月に九州方面に行きます。

**対組駅伝**：最近学校周辺の交通事情が悪くなり、昨年より生徒の安全を考えて辻堂の海辺を走るコースに変更しました。

**スキー教室**：昨年も1年生の半数を上回る160人あまりがバス5台に分乗して、菅平高原に行ってきました。

高校入試制度の変化について

16年度入学者の選抜から入試制度が変更され、学力検査を行わないで、内申書の記載事項や面接等により選考する前期選抜と、学力検査と内申書等により選考する後期選抜を実施するようになりました。今春の入試では、本校は前期選抜で募集人員の20%を、後期選抜で残りの80%を選考しました。

さらに、今春の入試から、これに加え学区が撤廃され、県内のどの地区の受検者でも同等に選考するようになりました。これまでは募集人員の25%が学区外受検者の入学限度で、学区外の受検者にとって本校は狭き門であったわけですが、学区が撤廃されたことにより、旧学区外とりわけ今春は横浜市からの入学者が増加し、旧学区内入学者と旧学区外入学者の割合が、ほぼ半々になりました。

今後も、これまでに勝るとも劣らない高い学力と、湘南での諸活動に向かって行ける活力に溢れた生徒達が集まってくることを期待したいと思います。

(前湘南高校全日制教頭 松本幸久)

### 2005年春の職員異動 略

#### ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号は削除。

ただし、会長、副会長、校長先生、著名な方、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

## 定時制部会より

定時制部会長 田添 正

### 1 湘友会入会説明会及び卒業式について

定時制部会では、一昨年度より卒業年次の担任から要請を受け、卒業生に対して湘友会入会説明を行っているが、今年度は2月7日に説明会を実施した。

平成16年度(第54回)卒業式が3月10日に挙行され、卒業生69名中14名に対し、一昨年度から実施されている「3年間で卒業出来る制度」が適用された。卒業生には記念品代として、卒業アルバム制作費の補助を行った。

また、最近の特徴としてあげられることは、外国籍(南米や東南アジア)の生徒が各学年に数名含まれ、国際化の現象が見られることである。

### 2 平成17年度の行事について

- 4月 6日 入学式
- 5月 定時制部会法発行
- 6月 19日 文化祭当日に定時制部会総会
- 10月 上旬 体育祭
- 11月 中旬 修学旅行
- 3月 上旬 卒業式

なお、体育祭および全国大会出場者には、定時制部会として、些少だが補助を行っている。

### 3 トピックス

[現役の運動部も文化部も活躍しています。]

平成16年8月に国立競技場で開催された第39回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会に、県大会を勝ち抜いて、3年連続本校から2名が出場し、活躍した。中でも、村井さん(1年生)は400mリレーで優勝し、県の男女総合優勝に貢献した。また、バドミントン部男子は、神奈川県大会団体戦3位 個人戦ベスト8の成績を収めた。

文化部では、演劇部が関東大会に出場し、芸術部も神奈川県定通生徒作品展で優秀賞受賞。軽音楽部が県高文連県大会で特別賞受賞、県定通芸術祭で優秀賞受賞。さらに県定通芸術祭では、有志合唱団も努力賞を受賞した。



## 通信制同窓会(むつみ会)より

むつみ会会長 若命徳達

### 16年度むつみ会報告

在学中はあまり気にしていなかった校門の左右にある「くすの木」ですが、卒業して学校へお邪魔する度に大きくなっているのに自然のすばらしさを感じます。また、見上げる度に、学校での思い出が一つ二つと頭に浮かんできます。皆さんも学校で行われる湘友会、むつみ会などの行事には是非参加し、この「くすの木」を見て青春時代を思い出してください。

平成16年度のむつみ会活動を、下記のとおり実施いたしました。

1. むつみ会報 第8号の発行
2. 料理教室の開催
3. 湘友会行事への参加 (湘友会総会他)
4. 学校行事への参加
5. 少年工科学校、川瀬学園行事への参加

湘友会・むつみ会ともに、楽しい行事ばかりでしたが、中でも皆さんに参加していただきたいのは、湘友会総会(16年度出席者15名)と、むつみ会主催の料理教室(16年度参加者15名)です。湘友会総会に出席して会全体を理解し、料理教室でむつみ会を楽しんでいただきたいと思います。

料理教室では、佐藤キミさん(32回生)が中心になって、栄養のバランスを考慮したレシピを作ってくださいます。魚介類の料理では、戸村さん(30回生)に、調理の指導はもちろん、新鮮な魚や貝の選び方や保存方法など、普通の料理教室では教えてもらえないことまで親切に指導していただいております。出来上がった料理はみんなで味わいますが、毎回おいしくて好評です。

食に関しては、ここ数年いろいろな問題が起きており、自己管理が叫ばれています。料理教室は、最大限に旨く食することを人生の喜びの一つとし、男女に関係なく健康を保つため、安全な食材を選ぶ知識を身に付けてほしい、との思いから、6年前より始めた行事です。一人でも気軽に参加できる雰囲気がありますので、都合をつけて是非参加してください。



# 支部だより

## 創立85周年記念 湘友会名簿 来年6月発行！！

来年の85周年記念事業の一環として「湘友会名簿」を発行します。前回の発行から5年が経過し、2000名の新会員（卒業生）を迎えております。また既会員の方々の住所、勤務先の異動等もあり、情報の更新が必要な時期となりました。正確な会員情報の掲載された名簿は私たち「湘友会」の大切な財産であり、唯一の交流手段です

調査カード（ハガキ）の返信、広告掲載のご協力をお願い致します。なお制作から発送まで、過去2回の制作に実績があり、かつ個人情報管理に定評のある名簿専門業者、（株）サラトに委託致します。

### 個人情報の取り扱いについて

登録の個人情報は下記の目的に利用します。

「湘友会名簿」への掲載

本会からの各種通信文書の送付

その他会則に定める事項の遂行に必要と判断された諸事業

会員名簿作成における個人情報の提供は任意です。氏名以外で提供（名簿掲載、及びデータ登録）を希望されない項目は、送付されます調査カードにてご指示いただけますが、住所は原簿への登録（上記）のためにも、必ずご記入をお願い致します。なお返信ない場合は、お送りした内容に変更ないものとして掲載させていただきます。登録の個人情報は委託先も含め機密保持には万全を尽くします。また登録の個人情報は、学校、確認された会員、名簿作成委託先以外の第三者には開示しません。

名簿の詳細は同封「チラシ」をご覧ください。

## 創立85周年記念「湘高新聞」復刻版 来年4月発行！！

湘南高校では、創立85周年を記念して、「湘高新聞」の復刻版（B4版約600頁の予定）を発行することになり、湘友会でも販売など財政面での支援をすることになりました。

「湘中新聞」昭和22年から「湘高新聞」最新号までと、号外の一部が掲載されます。

また、「湘高新聞」の発行された時代の湘南高校の主な出来事や時代背景も紹介され、お読みになった方には、高校生活の懐かしい思い出がよみがえることでしょう。

しばし休刊していた「湘高新聞」も、昨年2月26日3年ぶりに復刊(234号)されたそうです。

詳細は同封「チラシ」をご覧ください。



### 藤沢支部

藤沢支部では、昨年8月28日（土）夕刻6時よりグランドホテル湘南にて、恒例の「夏の集い」を開催した。トップバッターを務めた日本の地震学の権威31回生神沼君による「湘南地方に予想される地震とその対策」と題した講演は、われわれ一人ひとりの切実な問題だけに、聞き入る者も真剣そのものであった。続いて大澤校長による湘南高校の現状報告、天野会長の現役生徒へのエールがあり、神沼君が特別に取り寄せてくれた南極の氷をふんだんに入れた水割りや乾杯。数万年前の微妙な音と味わいで、ロマンに満ちた世界を満喫した。その後の豪華な立食パーティーでは、懐かしい顔ぶれ同士の歓談の華が咲いたが、バックの楽団演奏、フラダンスが会を盛り上げてくれた。

今年度は9月3日（土）6時より、場所も同じホテルで、東大医学部講師を長く務めた34回生西原君の「臓が生み出す心」と題した講演と、いつものように楽しい交歓パーティーがあるので奮ってご参加いただきたい。（太田<sup>34</sup>）

### 茅ヶ崎・寒川支部

支部総会は、例年と同様に2004年11月23日、61名の会員の参加と大澤校長、川田先生、天野会長をお招きして、阿部浅本店で開催された。茅ヶ崎支部はここ数年、寒川の湘友会会員と一緒に支部の集まりを行ってきたが、機が熟し出席者の意向として、茅ヶ崎・寒川支部を立ち上げようということになった。

総会終了後の記念講演には、元朝日新聞学芸部の記者で、大衆芸能の第一人者である評論家の太田博氏にお願いして、「平成の志ん生・文楽たち」という演題で、落語界の今昔と現代性についての興味あるお話をいただいた。（篠田<sup>33</sup>）

### 平塚支部

2004年11月27日（土）17時からスポーツプラザ神奈中平塚において、湘友会の天野会長、支部会員48名の出席をいただき、平成16年度の支部総会・懇親会を開催し、楽しい一時を過ごしました。

（田中<sup>36</sup>）

### 鎌倉支部

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動し、数年ごとに総会を開き、毎年幹事会を開いています。2005年は5月7日（土）5時から、鎌倉の二の鳥居前の浅羽屋で、幹事会が開かれました。湘友会の天野会長にもご出席いただき、湘友会の様子を伺い、各自の近況やこれからの活動について話し合われました。

この幹事会は、毎年春に開かれ、過去・現在の鎌倉・逗子・葉山に在住・在勤の方なら誰でも自由に出席できます。気軽に下記へご連絡下さい。（内海<sup>31</sup>）事務局：（略）

# 学年だより



## 12回生

第20回目の同期会を、2004年5月8日(土) 12時30分、昨年と同じ当地の、日本料理『ひよく』で開催した。参加者は12名、現存者30名の40%である。年齢は全員85才前後である。遠く大阪、東海村、沼田市からも出席したが、さすがに杖をついた者、または家族の介護を必要とする者などもいて、みんな頑張ったの参加であった。



3時間程歓談して、3時30分解散した。その時、「また来年会おう」の声が掛かった。(溝延 記)

## 13回生

2004年6月9日(水)、93歳になられた春原先生をお迎えして、銀座アスターでクラス会を開きました。冒頭この1年間に物故された5名の級友に黙祷を捧げた後宴に入り、まず先生から「長寿の秘訣はよく眠ること」とのお話があり、各々近況を報告しあって歓談に時を忘れました。この会は初代幹事の長君と、長君亡き後を引き継いで今日に至っている富田君との2名の名幹事のお陰で、今日まで途切れることなく続けて来られたもので、級友一同両幹事の功績に対し、深甚なる敬意と謝意を表わすものであります。われわれも既に平均84歳、あと何年続けられるかわかりませんが、元気な者が残っている限り、続けて行きたいと思っています。(三觜 記)

## 16回生



桜の開花が始まった4月5日(火)、16回生の同窓会をグランドホテル湘南で開きました。

昭和の動乱期を生き抜き傘寿を越えた同期生29名が集まり、懐旧談に時の経つのも忘れ、楽しいひと時を持ちました。(藤野 記)

## 17回生 逸賢会

17期同窓会は、2004年11月20日(土)例年通り藤沢駅近くの銀座アスターで開催した。早生まれを含めた全員が傘寿に達したのを祝う気持ちの表われか、出席者は37人で、昨年より4人多かった。と

は言え、天命には抗し難く、この1年間に俳優江見俊太郎(本名・黒川輝郎)など7名が鬼籍に入った。この人達の霊を慰め、皆で黙祷を捧げてから開宴した。席上で行われた全員の近況報告や、出欠の返事に書かれた消息では、80にしてなお仕事をバリバリこなしている同期生達の存在が、心強さを感じさせてくれた。中には終身現役という頼もしい報告もあった。また篆刻や歴史散策などに生き甲斐を見出す人や、海外旅行を楽しむ者もいた。半面、闘病生活の無念さを訴える仲間もあり、早期回復を祈ること切だった。校歌を合唱し、来年の再会を約して散会した。

懐かし校歌に心を合わす 長寿仲間のクラス会  
海外旅行の話があった 八十路同士の君と僕  
(谷崎 記)

## 19回生 一休会

同窓会を、2004年10月16日(土)に、藤沢商工会議所レストラン「栄」で行いました。ここ十数年来毎年、藤沢・鎌倉・平塚を交互に会場として全体会を行ってきましたが、今年は湘南中学卒業60周年にあたり、また全員喜寿を迎えた年であるということで、これを一区切りとしてこのような例会は終わりしようとして今年の例会で決定し、今年は最終回として行いました。19回生は、成長期が食糧難の時代に当たっていたせい、全員の40%弱が他界、体調不良を入れると50%を超える状態です。それでも今回は最終回ということで、発信数の30%を超える41名が参加して、賑やかに大いに盛り上がりました。お互いに年を忘れ、大いに呑み、昔の湘南中学時代に帰り、懐かしいあれやこれやのことごとく等々(しかし、校舎・剣道場・講堂・図書室・中庭・浪人山など思い出に残るものは全て姿を消し、或いは変え、校門の横にある亭々たる楠木のみが、過ぎ去りし年月の長さを具現してくれるのですが...)話に華が咲き、嫌な世の中の事どもも忘れ、時の過ぎるのも気づかぬひとときでした。終わってストレスがなくなり、何かスカッとしたいい気分になり、まだもう少しこの世の中の行く末を元気で眺めていてやろうという気持ちになりました。今後の一休会の運営について、連絡先等を決め、湘友会の基金として、金30,000円を寄付することを決し、全員で校歌を斉唱して解散しました。(草間 記)

## 20回4卒の会

祝喜寿・祝卒業60周年記念総会が、2004年10月7日(木)グランドホテル湘南で開催され、71名の同期生がにこやかに元気よく集まった。旧制相中には、昭和16年の開戦の年に入学し、終戦間近の20年3月に、4年生で、軍需工場に動員されたままの状態卒業せざるを得なかった私たち同期も、あれから60年の歳月が流れ去り、戦後の荒波を泳ぎきってきた友の顔は、おしなべてにこやかな好々爺に変身していた。

第1部は君塚君の司会で始まり、会長内山君の挨拶、

黙禱、細君指揮の校歌大合唱のあと、中原君を議長に選出して、(1)会計報告(2)監査報告(3)新役員選出を原案通り可決承認して終了し、地階の写真室に降り、入念に時間をかけて記念撮影におさまった。

第2部は3階の宴会場に移り、司会を植木君に代えて開宴した。根岸君の音頭で喜寿・卒業60周年を祝って、シャンパンで乾杯。ホテル員のシャンパンを抜く快音が場内あちこちに響き、北海道から北村君、長野県から日色君もかけつけて、にぎやかな会になった。小泉君が都美術館で開催された第66回一水会展で、文部科学大臣奨励賞を受賞した発表があり、小泉君が



挨拶し、続いて元気印の代表格の小林君のスピーチ、同西川君のスピーチ等で盛り上がり、料

理も酒も充分に出て、大いに友との旧交を温めることができ、喜寿の感慨、卒業60周年の感慨に浸る楽しい宴席が続いた。姉川君の閉会の辞のあと下里君の三本締めにより、名残惜しい会も終了し、記念品の紅白菓子「二人静」を土産にして散会した。なお、当日の欠席会員には、総会次第・会員消息・会員住所録その他を載せた「会報」が別途郵送された。(植木 記)

### 21・22回生

2004年9月27日(月)グランドホテル湘南にて同期会を開催。会員60名参集し、毎年の如く金子恩師(3回生)を囲んで和気あいあい裡に予定通り行事進行した。95才の先生は声大きく元気で「百才万才」可能。今回趣向を変えて企画した中国琵琶奏者・歌手の友情出演で佳境に入り、会食を楽しみ旧交を温めた。インタビュー方式により仲間より、ホルモン研究先駆者の婦人科医でありながらウィーン楽友協会で日墮混声合唱をやった多才な男の話、厳冬の北海道の風景を描き続けている院展特待の男の話、白馬とニュー



ジーランドに山小屋を持つ山大好き冒険野郎の話等が出て面白かった。また国際財政学会名誉会長の大学名誉教授が、学会の合間に駆けつけてくれたのにも感激した。しばらくして宴たけなわとなり、全員で校歌を斉唱して閉会。「次回は鎌倉で」を合言葉に皆元気よく各々目的地に向かった。(平野 記)

### 23・24回生

毎年開催ということで2004年10月2日(土)清明会館にて、二三四会総会を56名参集して開催した。春原先生には、94歳のご高齢にも拘わらずご出

席賜り、ご挨拶をいただいた。集まった我々は当年とって74歳、20年後には果たしてどうなっているかと感じた次第でした。添田先生には、動脈手術後のため今回は欠席、次回はご出席いただけるとのことでした。

当日同窓会誌「われら黄金時代」第6号を出席者に配布、欠席者には郵送した。第7号を3年後の喜寿の年に、第8号を更に3年後の傘寿の年に、祝い号として発行を予定しているが、これは畠山・森両君次第である。本年も総会開催を10月に予定している。

(大藤 記)

### 27回生 2004・雲外の集い

恒例となっている毎年6月の同期会、2004年は12日(土)にグランドホテル湘南(旧藤沢グランドホテル)で開催された。タイトルとした「雲外の集い」は、江戸時代初期の文人、石川丈山(1583-1672)の詩「富士山」からとったもので、それは「仙客来り遊ぶ雲外の嶺」の句から始まっている。これに因んで既に古希を過ぎ、多くの仲間たちが悠悠自適の生活に入ったいまにふさわしい会にしたいという願いからである。はからずも当日は前日の雨天とは打って変わった晴天に恵まれ、正に雲外の集いとなった。来賓として斎藤忠先生、濱田靖一先生、望月英雄先生、小山文雄先生の4名の恩師と、湘南高校現校長の大澤先生をお迎えし、会員109名が久しぶりの再会を楽しんだ。

会は第一部と第二部に分け、一部は映写会、二部は総会ならびに懇親会という構成である。映写会では小山文雄先生原作・同期の秋山君構成の「海のかがやき」藤沢近代の文士たち(2)を上映、これは10年前、やはり我々36組が幹事クラスとしてこの場所で行った同期会で上映した「潮のひびき」の続編であり、この2回で完結したことになる。

第二部は図師君の司会により開会、幹事クラス代表と会長和田君の挨拶、この1年、8名の物故者への黙禱に続き、恩師代表として小山文雄先生、それに現校長大澤先生から御挨拶を戴いた。

総会では規約改正と役員改選が行われ、13年にわたり会長職にあった和田君に替り、秋山君が新会長に、副会長は佐々木君・高田君に替り、島村君・矢田君が選出され、秋山新会長の挨拶で締めた。

懇親会ではテーブル席、和食のビュッフェ形式で賑々しく過ごしたが、充分用意したはずの料理が意外と早く食べ尽され、相変わらずの健啖ぶりに驚かされた。

2時間に及ぶ懇親会も瞬く間に過ぎ去り、次年度幹事クラス37組への引継ぎ、杉山君のリードによる校歌と青春の歌の大合唱、島村君の閉会の挨拶でお開きとなった。(寺田 記)

### 30回生

卒業50周年を記念し、祝賀同期会および同期生による作品展を下記の通り開催します。



同期会：平成17年9月2日(金)午後2時～5時  
 グランドホテル湘南  
 展示会：平成17年8月30日(火)～9月4日(日)  
 午前10時～午後7時(最終日は午後5時)  
 藤沢市民ギャラリー 第1・第2展示室  
 (藤沢ルミネプラザ6階)  
 詳細は後日連絡します。(遠藤 記)

### 31回生

他の同期会の報告と違って、同期会の予告をさせていただきます。

卒業後約50年たち、13回目の同期会を、私達が知らなければならぬ医療についての講演で同期の堀井さんをお願いし、恩師も困んで開くことになりました。また天野君の湘友会長激励会も兼ねて行います。友人を誘ってご出席下さい。なお、案内のはがきは出す予定です。

日時：2005年9月10日(土)  
 16:00～19:00(受付15:30～)  
 場所：鎌倉芸術館 Tel:0467-48-5600  
 (大船駅より10分 三越・鎌倉女子大そば)  
 内容：堀井(内田)さん(元保健所長)の講演  
 「一病息災を支援します」(約1時間)  
 その後懇親会

会費：8千円  
 連絡先 幹事長 内海

(内海 記)

### 32回生

2000年から毎年開催することになった第11回同窓会は、昨年と同じ会場『横浜クルーズ・クルーズ』で、11月14日(日)80余名が参加して開催しました。開会に先立ち、本年逝去された3名を含む物故者に対して黙祷を捧げ、硬式野球部の遠山の司会で始まり、相変わらずお元気な恩師、雨宮先生のお話、本年度の方針「外部からバンド等呼ばず、日頃行っている趣味、昔取った杵柄を披露し、仲間を増やし、多くの者と懇談する」を決めました。名乗り上げた有志バンド、なかなか練習時間が確保できず、当日4時間前より会場を確保、軽食も用意して頑張り、見事な演奏を披露し拍手を浴びる。バンド希望者も出て、今回は楽しみにする。自著の宣伝もあり、盛会にて終了。

(山田 記)

### 33回生 第2回燦々会

卒業以来44年間、各クラスでの会合はそれぞれ開いていても、学年としては集まることはありませんでしたが、昨年初めて学年全体の会を開催しました。

第2回目は1組が当番で、2004年10月21日に横浜ベイシェラトンホテルで開きました。竹下先生においでいただき、66名の同期生が楽しい時間を過ごしました。昨年来られなかった人も20名ほど参加し、数十年ぶりに旧交を温めた人もいました。校歌の

斉唱、先生のご挨拶と乾杯のご発声でスタートし、最後に応援歌を声高らかに歌って、また来年の再会を期して家路につきました。(江崎 記)

### 38回生

2004年7月3日(土)藤沢産業センターで第5回38回生同期会を開催した。40歳を期に5年ごとに集まっていた仲間も、還暦を迎えることとなり、現役を退いたもの、年度末を迎えて退く予定のもの、再度の挑戦をしているもの、悠々自適?孫と楽しんでいるもの...100名ほど集まって、お互いの健康を祝し、次の会合にも元気に集まろうとエールを交換した。恩師の小山先生・澤先生・落合先生もご出席くださり、楽しいひと時を過ごした。二次会にもほとんどの出席者が残る盛況振りで幹事をあわてさせる一幕もあり、その後3次会...へと流れていった。次回はもっと時間を短縮して開催しようとの声も上がっていた。

(渡邊 記)

### 50回生 合同同窓会に302名が出席!

2005年1月8日(土)、東京會館にて50回生の合同同窓会が開催されました。

「来年は卒業30周年だね。」誰かの何気ない言葉から始まったこの記念行事は、40数名の幹事団により約1年間かけて準備が進められました。合言葉は「全員連絡」「出席300名」。残念ながら卒業生414名中たった1名、最後まで連絡先がわかりませんでした。当日は担任の先生方のご出席を含め、総勢302名が集うという盛会ぶりでした。会場には懐かしい高校時代(1972～1975年当時)のヒット曲の数々がBGMとして流れ、各組10分ずつのクラス紹介は『対組』を思わせる盛り上がりで、会場には皆の熱気が溢れました。二時間半は瞬く間に過ぎ、30年の歳月を埋めるにはあまりにも短すぎた感もありましたが、交流の輪は当日のクラス毎の2次会、3次会、(4次会)にとどまらず、1年時のクラスやクラブでの交流と様々な方向へ広がりを見せているようです。

E-mailやインターネットという通信手段がなければ、これ程多くの人が集まることはなかったかもしれ



ませんが、最後は50回生皆の『会いたい』という気持ちで、この合同同窓会を成功に導き、またそれが出席者それぞれの大切な心の財産として、今後の人生のエネルギーの源となったと信じております。(青山(井上) 記)

# いろいろ湘友会

## 日立湘友会 日立湘友会発足して4年

2004年7月7日(水) 東京大森にある日立山王倶楽部で第4回日立湘友会総会を開催した。日立湘友会は、日立製作所及びその関連会社に勤務している者ならびにそのOBで構成されている。

日立グループ内に多くの湘南高校卒業生がいることは容易に想像できたが、その数や実態は全くわからなかった。1996年度版湘友会名簿を基にした調査により、140名程度の該当者の存在を把握し、何とか2000年10月に準備会を立ち上げ、2001年4月設立総会開催にこぎつけた。その後同年6月に発行された80周年記念湘友会名簿により見直して、内容の正確性を期した。現在、会員数は231名(60歳以上59名、女性20名)である。

初代会長には、日立湘友会設立に強い意欲を持ってご指導くださった松岡会員(元日立製作所副社長・22回)に、副会長には桐澤会員(前日立プラント副社長・29回)に、と湘南サッカー部OBコンビにお願いし、日立目白クラブ(東京)にて、約50名の出席者を得て設立総会を開催、以後年1回総会を開いて親睦を図っている。

第4回総会には湘友会から天野会長(31回)、湘南高校から小林先生(49回・校内幹事)にご出席をいただき、湘友会本部の近況及び学区廃止の影響、クラブ活動、男女数変動等、湘南高校の現状をお話しいただいた。

当会は縦の関係もある企業内同窓会のため、若手の参加促進、アトラクションの工夫、女性会員の出席勧誘対策等々の妙案捻出に頭を悩ましてきた。ところが今回は女性会員の出席もあり、例年以上に先輩後輩入り乱れた話の輪がいくつもでき、大いに盛り上がった



2時間余だった。石の上にも3年というが、これで日立湘友会も定着に向けて確

実に歩み出せたかなと幹事一同ホッとしているところである。そして一味違った湘友会としてうまく機能していくよう、気長に辛抱強く努力していこうと申し合わせている。

現在、副会長を櫻井会員(GNFJ社長・39回)にもお願いして2名制とし、幹事に平成年度の若手卒業生も加えた下記体制で運営している。

会長/松岡<sup>22</sup> 副会長/桐澤<sup>29</sup> 櫻井<sup>39</sup>

幹事 略

(緒田原<sup>31</sup> 記)

## 気象部OB/OG会 おてんきかい

気象部のOB/OG会を「おてんきかい」と称します。この名称は1950年代後半につけられました。会の役職や規則は何もありません。湘友会名簿には私が代表者となっていて驚きましたが、連絡役は必要だからと仲間内でも認められていると理解しています。

おてんきかいの活動は大きく三つに分かれます。まず気象部を創部した27回生を中心とした集まり、32回生、それ以外です。31回生の私は27回生の仲間に加えていただいたり、32回生の集まりに顔を出させてもらったりしています。33回生以下もそれぞれ近い学年間での活動はあるようですが、私は詳細を知りません。

27回生を中心とした集まりは、創部者の一人で、世界的な気象学者になられたアメリカ・カリフォルニア州立大学名誉教授の柳井迪雄さんを中心に動いています。柳井さんは1年に一度ぐらいの割合で帰国されますので、その折に会をもつことが多いです。

2004年3月19日にその集まりがあり、27~32回生約30名と47回生の山本さんが出席されました。山本さんは湘南に教師としても12年間勤務され、気象部の顧問もされたので、「年寄りが母校の現状を理解する」話をしていただきました。気象部の現状は「風前の灯火」のようで、そんな話を聞くとOB/OGは在校中の古き良き時代を思い出し、昔話に花が咲きました。

1948年5月9日の礼文島皆既日食の観測、再三上陸した台風観測やその眼を記録した気圧の記録紙が新聞に載ったこと、鹿地巨スパイ事件で、毎日の観測データがあるので何年か前の天気を刑事が聞きに来たなど話は尽きず、文化部としては結構派手な話題があり、それだけに記憶に残っているようです。皆さんそれぞれクラブ活動を通じ、高校生活を楽しまれたのです。

27~31回生30数名、それぞれが選んだ道で活躍され、多くが退職の時期を迎えています。そんな皆さんと会い、話を聞くだけでも面白いのです。在学中少しでも気象部に籍を置いた方、おてんきかいに興味がありましたら、とりあえず私までお知らせください。

(神沼<sup>31</sup> 記)

## 福祉湘友会

2004年7月17日(土) 藤沢市立白浜養護学校にて、「養護学校の今」をテーマに研修・懇親会を、2005年1月15日(土) 鎌倉浄明寺、左可井にて総会・新年会を開催。総会では、現役の社会福祉委員会の皆さんに何か支援できないか話題となり、今後福祉に関心のある現役生徒に何らかの働きかけをしていくことが確認されました。

現在、会員資格が一般会員と情報会員の二種となりました。すでに退会された方、入会をためらわれている方、改めて情報会員としての入会をお考えいただけれ



ばと思います。  
 次回は7月2日  
 (土)(あるいは  
 16日)に母校清明  
 会館にて、海外留学、  
 研修をされた方を講

師にお願いし、開催の予定です。(奈倉<sup>37</sup> 記)  
 「問い合わせ・連絡先」(略)

### 「湘吹会」(吹奏楽部OB会)

湘吹会は高校生現役部員とともに、年に一度藤沢・鎌倉ホールを利用し定期演奏会および総会を開催し、幅広い年代の人々が集まって旧交を温める恒例行事として定着している。

昨年の4月4日、第24回定期演奏会が藤沢市民会館大ホールを満席にして開催された。恒例のOB・OGのみによるマーチ演奏は、同和鉱業会長・原田(20回)が在校当時(昭和19年)編曲した「歴史的行進曲集」が60年ぶりに復元され、60余名のOB・OGが音楽家の永濱(25回)の指揮で演奏され、時代を越えても変わらぬ音の新鮮さに観客席から盛んな拍手が送られていた。

今年の3月27日、第25回定期演奏会が前年と同様、藤沢市民会館大ホールを満席にして開催された。演奏会終了後総会が開かれ、定例の議事の他に会員の大半を女性が占める趨勢に会の呼称変更が提案され、満場一致で事務局提案どおり名称を「湘吹会」に変更することが承認された。総会後の懇親会で、ブラバン創設時の20回生から今年卒業の80回生まで参加して世代を越えた交流が賑やかに交わされ、最後は西川(20回)の校歌指揮エールで締めくくった。【校歌CD制作】今から20年前、当時の湘南高校整備期成会の協力を得て、会員頒布形式で制作した『校歌・応援歌レコード』がありました。最近レコードやプレーヤーは珍しくなり、これをCDかテープにできないかという問い合わせが湘吹会(吹奏楽部OB会)にあったので、有志を募って当時制作に携わったPTA会長(当時)杉野(27回)が保存していた音源をそのままCDに復刻いたしました。演奏は、昭和58年度の現役吹奏楽部1・2年生(現60・61回生)他で、収録されている曲は、

校歌 湘南健児の歌 五丈原頭 青春の歌 選手を送る歌 若人の歌 応援歌 嗚呼湘南の朝ぼらけの8曲(歌詞つき)です。残部のある限りご希望の方に制作費実費にてお分けいたします。

「連絡先」 略

(佐藤<sup>35</sup>/藤井<sup>38</sup> 記)

## トピックス

### 寿 添田徳積先生卒寿を祝う会

添田先生が卒寿をお迎えになったことを記念して、先生が湘南定時制に主事として在職中の教職員有志が体調を考慮して、地元平塚の神奈中グランドホテル松風で、2005年1月15日(土)お祝いの会を開催しました。与野先生の司会で始まり、先生からは、昨年脚を手術され、その後夏の異常高温で体調を崩され、体重が26kgも痩せたが、現在は健康である。また在職中の藤沢一中の火災時の定時制の生徒の活躍、交通事故死した生徒を慕った生徒の自殺未遂事件等の思い出が話され、その鮮明な記憶には参加者頭が下がりました。広島から参加の倉岡先生お祝い、奥様の詩吟、



フィリピンより九島先生のお祝いメッセージや参加者のお祝いの言葉があり、最後は定時制名物の与野先生の演芸があり、お迎えに来られたご家族も一緒に盛り上がりました。次

は「先生の白寿の会でお会いしましょう」を合言葉にお開きになりました。(山田<sup>32</sup> 記)

### 湘南高校ペア ビーチバレーで全国ベスト8入り!

2004年8月、愛媛県伊予市で開かれた「マドンナカップ・ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会」に、本校全日制3年生(当時)の川越さんと稲川さんのペアが県予選を突破して出場し、全国ベスト8入りを果たしました。

川越・稲川ペアは、一昨年の神奈川県予選にも出場、決勝で惜しくも敗退。満を持して臨んだ昨年6月の県予選・決勝トーナメントで、前年敗れた東海大相模高勢を退けての優勝となり、見事全国大会への出場権を獲得したのでした。

高校生最後の夏休み、目標に向かって練習に打ち込んだ二人、今後の活躍が楽しみです!

### 鈴木直人 湘友会副会長 ご逝去

長年に亘り、湘友会の活性化にご尽力いただいた鈴木直人氏(36回)が、病氣療養中のところ、2005年1月23日(日)早朝 逝去されました。

生前の、湘友会活動への多大な寄与に感謝致すとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

人・生き生き

地震学者  
国立極地研究所名誉教授  
総合研究大学院大学名誉教授

神沼 克伊さん(31回)



かみぬま かつただ

1937(昭和12)年生まれ。東京大学大学院博士課程地球物理学修了。理学博士。東京大学地震研究所に入所し、地震や火山噴火の研究に従事した。1967(昭和42)年、第8次日本南極地域観測隊員として昭和基地で越冬する。1974(昭和49)年国立極地研究所に移り、極地の地震や火山・地殻変動を研究した。のち、総合研究大学院大学の教授も務めた。

主な著作に『地震学者の個人的な地震対策』、『極域科学への招待』、『南極の四季』などがあり、著書多数。南極には、「カミヌマクラッグ」「カミヌマブラッフ」という二つの地名がついている。

聞き手：江崎<sup>33</sup>、柏木<sup>51</sup>

<湘南高校時代の思い出>

昭和24(1949)年、私が小学校6年生の時、湘南高校が全国高校野球選手権大会で全国優勝しました。これが湘南へのあこがれの第一歩で、藤沢第一中学校から湘南高校へ入学しました。全国優勝した時代からの薫陶を受け継いだ先輩達がいり、やはり湘南は違うなと思いました。同級の天野湘友会会長が、野球の全国優勝は当時いろいろな面で生徒達を勇気づけていたと湘友会の総会で挨拶されましたが、まさにその通りだと思います。

私は、中学時代から天気図を描くなど理科が好きだったこともあって、すぐに気象部に入部しました。当時3年生(29回)が5人いて、非常に熱心に面倒を見てくれて、気象学をしっかりと習いました。気象部では毎日気象観測を9時に行っており、階段教室の気圧計を測りに行っていました。時には講義の最中ということもありましたが。また、月に1回、微気象観測で江ノ島に出かけ、温度・湿度などを調べました。台風観測では上陸前後の気象の変化を調べるため、学校によく泊まり込みました。こうして「自然を見る目」を養っていったんですね。

ところで、気象部のOB/OG会として「おてんき

かい」があり、創部した27回生を中心に活動しています。27回生には、世界的な気象学者であるアメリカ・カリフォルニア州立大学名誉教授の柳井迪雄先生がいっぱいいます。今年(04年)の春の集まりでは、在学中の古き良き時代を思い出し、再三上陸した台風の観測や、その眼を記録した気圧の記録紙が新聞に載ったことなどの話が出ました。また、ソ連のスパイ事件に関わる人物の捜査では、刑事が湘南高校には毎日の観測データがあるので、事件当日の天気を聞きに来たなど、文化部としては結構派手な話題があったことを思い出しました。社会全体の「理科離れ」の影響であるのか、現在、母校の気象部の現状は風前の灯火のような話を聞きますが、卒業生としてさびしい限りです。気象部OB/OGの多くは気象とは無縁の職業につかれましたが、卒業から50年、60年後の今日でも、若い時と同じように「自然を見る目」「科学する心」を持っており、それだけ心豊かな人生を送られているのです。

また、校長先生は第4代の松川昇太郎先生で、当時、湘南高校はいい先生をそろえていました。例えば、気象部の顧問はボケさんの愛称で親しまれた数学の石井先生でした。口はあまり出さないけれど、ポイントポイントでしっかり面倒を見てくれまして、大変お世話になりました。現在、湘南高校は70分授業だそうだが、当時は100分授業でした。今の生徒達ではもたないかもしれないが、70分授業では、授業の調子が出てきた時に終わりという感じではないですか。私は100分授業は大変いいと思っていました。体育の時間など100分もあると楽しいですよ。また、2校時が終了すると弁当だという喜びもありましたね。現在、湘南高校は生徒の男女比がほぼ同数だということですが、私たちの頃は、男女共学になって3年目ぐらいの時でした。体育祭の仮装行列で奈良時代の僧兵に扮し、校長に対して「一つ、女子生徒を各クラスに平等に分けよ。」と直訴するくらい、女子生徒は少なかったです。

<夢の転換と南極観測隊員へ>

将来に抱いていた夢は、湘南高校卒業直後頃、東京の後樂園遊園地でローターと呼ばれた乗り物に乗ったことで大転換しました。宇宙旅行が夢のまた夢の時代でしたが、私は一度は地球を飛び出し、少なくとも月へは行こうと考えていました。ローターでは地球の重力の2倍の力が、身体全体にかかります。乗った後1週間ほど気分の悪い状態が続き、地球の重力圏を脱する時の力を考えると、これではとても宇宙には行けないと、地球を飛び出す夢をあっさり諦めました。そして宇宙に行けないなら、せめて地球上のどこかで、人類初の足跡を印そうという夢を持つようになったのです。実際、宇宙飛行士が募集された頃、私は年齢制限を超えていましたので、夢の転換はよかったとも考えています。

その後、東京大学大学院入学、地球物理学教室で地震学を専攻するようになり、5年で博士号を取り、

1966(昭和 41)年に東京大学地震研究所に就職しました。当時は、砕氷船『宗谷』にかわる『ふじ』が南極に出航し、第7次日本南極地域観測隊による昭和基地の再開の時でした。学位論文を書いていた時、南極の地震観測のめんどろを見ていた指導教官から、南極行きを打診されました。南極行きは夢の実現の第一歩と喜んで二つ返事で南極観測隊員になることを希望しました。1966(昭和 41)年 12 月に第8次日本南極地域観測隊として南極に出発しました。実は、再開された昭和基地に、世界標準地震計と同じ能力を持つ長周期地震計を設置するという目的があり、その地震計を扱える人は、当時は国内でも数人しかいませんでした。学位論文でそれを扱ったことがある私は、技術も若さもあるということで、南極観測隊員に推薦されたのです。

1967(昭和 42)年 1 月 4 日、南極の地を踏みました。南極での越冬生活は楽しかったけれど、今考えてみると、やはり厳しいものでした。寒いことは覚悟のうででしたが、生活レベルが低いのです。越冬隊員は 24 人で、まともなトイレもありませんでした。しかし、広さは 1 坪にも満たなかったが、個室を与えられ、楽しいことが多かった。私の仕事は、主として基地での地震やオーロラの観測をすることでした。しかし、隊長に、地球上に初めての足跡を残したい希望があるから、1 回は内陸旅行へ行かしてくださいと頼んでいたところ、次の年に予定されていた南極点までの往復旅行に備えて、燃料を途中まで運ぶデポ旅行に同行させてもらえました。私以外は全員、もう一度内陸まで行く人達ですので、この辺から先はバージン・エリアという所に到達した時、「これから先は確実に誰も行ってないから、神さん、歩け。」ということになって、私は、雪上車の前を 1 キロか 2 キロ、勇んで歩きました。自己満足ですけど、地球上に初めての足跡を残したいという思いが実現したのです。夏には遠足にも出かけ、南極の自然を楽しみました。得たものは、自然の偉大さと自分の小ささを実感したことです。人間社会の営み、特に地位とか名誉とかが非常に小さく見えるようになりました。

#### <南極・地震・火山の幅広い研究者として>

日本に帰ってきたのは、1968(昭和 43)年 3 月で、また、東京大学地震研究所での生活が始まりました。当時は、地震予知という研究が始まったばかりで、基礎的なデータの必要な時代でした。大地震が起ると震源地へ馳せ参じ、余震観測をするなど、地震予知の先兵としてあちこち駆けずり回っていました。

その後、大学紛争が始まり、東京での研究生活に嫌気がさしました。1971(昭和 46)年、火山も研究してみようかなという気もあったので、霧島火山観測所に移りました。1974(昭和 49)年、大学紛争も終わろうとしている頃、国立極地研究所へと移りました。

南極の研究では、当時、アメリカの地震学の教科書には、火山性の地震は起こっても、構造性の地震は起

こらないと記されていました。昭和基地で観測していた時、私はどうも地震は起こっているなど感じていました。帰国後、きちんと調べてみると南極に地震が起こったことが判明しました。地震計を使ってこれを調べたのは、世界で初めてなんです。日本人で日本に起こる地震を研究する人は多いが、地震の少ない南極の地震を研究を希望する人はいないので、私は極地研究所に移り、南極観測の世話をし、地震研究を続けました。ただ、南極では地震が少ないので、地震の研究だけでは成果がでにくいので、アメリカやニュージーランドと共同で活火山の観測や測地学の研究もやりました。南極をめざしたおかげで、地震・火山・測地学をかなり深く広く研究することができました。こういった経験で、地震学だけでなく、幅広い目で地球上の現象を見ることができるようになったのです。

1970 年代の南極は、地下資源が注目されました。ただ、昭和基地付近は古い大陸で、石油、石炭などの地下資源が乏しいのです。しかし、アメリカのマクマード基地は付近には地下資源が潜在していると思われるので、日本もその地で地球科学の研究に貢献しようとして、マクマード基地へ派遣されました。1979(昭和 54)年から 10 年間、アメリカ、ニュージーランドと共同でエレバス火山の地球物理研究を行いました。マクマード基地へは、ニュージーランドを経由して飛行機で入るので、意外に近いのです。研究面から見ると、マクマード基地は物資も豊富で、ヘリコプターも使え、条件はよかったです。なお、南極へは公務出張では 15 回訪れています。この内、昭和基地へは 2 回の越冬を含め 3 回行きました。

近年地球温暖化が心配され、南極の氷床を含むいろいろな環境に変化があるかと聞かれます。「温暖化のため南極氷床がとけた」というような事は、数年の観測で結論をだすのは間違いのもとになります。環境変動というような変動現象は、いろいろな周期の現象が重なり合っています。数年、数十年、数百年というような周期を有する現象を数十年程度の観測で完全に分離し理解するのは不可能です。研究者によっては、シュミレーションという手法で、環境が悪化したとセンセーショナルに発表する人がいます。シュミレーションは初期データによって結果は大きく変わります。マスコミ受けするような発表は謹むべしと自戒しています。

最後に、私は南極に行き、地震・火山などの研究をしてきましたが、南極の奥行きを思い知らされ、「自然は大きく人間は小さい、己は小さく南極は大きい」というのが、私の実感です。

大変ありがとうございました。私たち同窓は、先生のご活躍を今後も祈念しております。

<平成 16 年 11 月 27 日 湘友会事務所にて>  
(文責 柏木)

## 2005年湘友会アレコレ

### 80周年記念誌・記念品(絵はがき)販売中

母校創立80周年を記念して発行された「記念誌」と「絵はがき」(教員・先輩寄贈の校内展示絵画8枚組)を残部がある限りでお譲りいたします。

価格は「記念誌」1800円、「絵はがきセット」700円、共に送料込みの値段です。購入希望者は、郵便局備え付けの払込取扱票に氏名、卒業回数、住所、品目数を記入して下記口座に送金下さい。入金確認後直ちに発送します。00260-7-13577 湘友会

絵はがきに収められている絵画は次の8葉です。

- 「烏森」塚本 茂(元美術教諭)
- 「パンジーのある静物」山下大五郎
- 「ピンのある静物」三浦次郎
- 「アネモネ」鈴木 清
- 「6月の港」石川滋彦
- 「辻堂風景(落日)」甘糟三郎
- 「城ヶ島」小泉元生
- 「イルカの見える丘」澤 昌男<sup>22</sup>(元美術教諭)

### 湘友会会員数2005

2005年3月の新入会員は合計643名で、内訳は全日制318名、定時制72名、通信制253名でした。その結果、2005年現在の会員数は、判明している物故者を除いて46,000名を越えています。

### 湘南高校新入生2005

今年の入学者

全日制	男子161名	女子155名	計316名
定時制	94	70	164
通信制	60	88	148
少年工科学校	285	-	285

### 湘友会ホームページ

<http://www.shoyukai.org>

湘友会はホームページを開設以来、5年間に8.5万回の閲覧を記録しています。「湘友会報」の概要に加え、クラブOB/OG会の予告、母校の行事、リンク集などをご覧になれば、ホームページならではの情報も楽しんでいただけます。

### 湘南卒業生の中のメーリングリスト

湘友会としては直接関与していませんが、加入者間で公開のおしゃべりや情報交換する「メーリングリスト」があります。湘友会員は誰でも加入できます。

加入手順を概略すると、

[Majordomo@shonan.dhs.org/](mailto:Majordomo@shonan.dhs.org) あてに、以下のコマンドをeメールで送って下さい。

Subscribe [Shonan@shonan.dhs.org](mailto:Shonan@shonan.dhs.org) [あなたのeメールアドレス] end 加入意思確認のやり取りのあと、メールが届き始めます。

入会后メールを送る(掲示する)場合は

[Shonan@shonan.dhs.org](mailto:Shonan@shonan.dhs.org) に送ります。

#### 後記

湘友会報は上記ホームページで見ることができます。

会員の住所変更については、湘友会ホームページ、E-mail、はがき、またはFAXで、湘友会事務所宛お知らせ下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

会報に関するご意見がございましたら、事務所までご一報ください。

来年2006年の総会運営は、卒業回数末尾が「6」の方々を中心になります。全日制36・46・56・66回生の皆さん、定時制・通信制16・26・36回生の皆さん、出番です！ よろしく願います。

#### 第47号の編集スタッフ

略

#### 会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年3月末までに届いた同期会、クラブOB会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、A4版用紙に記事(横書き、300字程度)や写真(1枚までスペースの関係で不掲載野場合もあります)などをまとめて事務所に直接お送り下さい。もちろん電子的にJFIF-テキスト直送(windows版)、メール添付も歓迎です。ただし、3月末の締切期限厳守です。

本年号の記事に、クラス会のお便りもいただきクラス単位の楽しい集いが伺え、同慶の至りです。しかし、今後ミニ集合の記事が増えると、紙面不足も考えられます。次号からは、「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブごとのOB/OG全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただきます。判断不明のときは、事務所にお問い合わせ下さい。

ご協力よろしく願います。